

国語 第4学年 題名の持つ意味について考えよう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、題名に関わる言葉が現れる場面を比べ、人物の気持ちや情景の変化から題名の意味を考える。戦争について知っていることだけで説明せず、物語の前半と後半に書かれた暮らしや行動に戻る。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「題名の持つ意味について考えよう」 教材名「一つの花」

2 単元の見どころ

言葉が人物の思いや考えを表す働きに気付き、題名に関わる言葉を確認められる。人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えられる。言葉の働きを確認め、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①言葉が人物の思いや考えを表す働きに気付き、題名に関わる言葉を確認めている。〔知識及び技能〕(1)ア)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えている。(C(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

題名に関わる言葉が現れる場面を比べ、人物の気持ちや情景の変化から題名の意味を考える。戦争について知っていることだけで説明せず、物語の前半と後半に書かれた暮らしや行動に戻る。学習指導要領のC(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)アを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

前半と後半の暮らし、行動、情景を対応させる。時代の語句は必要な範囲で説明し、その知識で本文にない気持ちを断定しない。題名への答えは根拠を付けて複数残す。おおむね満足できる状況は、人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認める支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

第1次 第1～2時：○全文を読み、題名への初めの考えと時代の語句を確認める。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第3～4時：○前半の暮らしと人物の行動を読み、気持ちを想像する。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第5～6時：○後半の暮らしと情景を読み、前半との違いを確認める。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第7時（本時）：○題名に関わる言葉を前後で比べ、気持ちや情景との関係を説明する。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第8～9時：○題名の意味について文章を書き、根拠を読み合う。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第10時：○初めの考えと比べ、場面を関係付けて読んだことを振り返る。 評価：態①（学習前後の記

録・振り返り)

6 本時の指導 (7/10)

(1) 本時の目標

人物の気持ちや情景を場面の移り変わり結び付けて想像し、題名の意味を考えられる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」

【めあて】題名に関わる言葉が現れる場面を比べ、人物の気持ちや情景の変化から題名の意味を考える。

予想される児童の反応：・同じ言葉でも場面が変わると感じ方が異なる。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」

自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。

予想される児童の反応：・同じ言葉でも場面が変わると感じ方が異なる。

・暮らしの違いから人物の思いを想像できる。

・花の描かれ方が題名を考える手がかりになる。

指導上の留意点：前半と後半の暮らし、行動、情景を対応させる。時代の語句は必要な範囲で説明し、その知識で本文にない気持ちを断定しない。題名への答えは根拠を付けて複数残す。

想定する難しさ：戦争はよくないという一般論だけになる。題名が示す物を答えるだけで意味を考えない。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 人物の気持ちや情景を場面の移り変わり結び付けて想像し、題名の意味を考えている。(発言と学習記録)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・花の描かれ方が題名を考える手がかりになる。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

